

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	グループホーム春桜 1階	評価実施年月日	平成20年8月1日
評価実施構成員氏名	鈴木 知子 ・ 岩谷 真由美 ・ 島田 淑子		
記録者氏名	島田 淑子	記録年月日	平成20年8月10日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>開所時より、その人らしく生きる為の理念をかかげています。</p>		<p>地域の中で、その人らしく生活出来るように外出等を工夫しています。</p>
<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>常に理念を念頭におき、実践に向けて日々取り組んでいます。</p>		<p>見やすい場所に理念をかかげ、又理念の記入したカードを携帯しています。</p>
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>理念を理解して頂けるように工夫して取り組んでいます。</p>		<p>パンフレットや、発行している春桜だよりにも理念を載せています。</p>
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>近隣の方々とは、日常的なあいさつをしています。</p>		<p>前庭にベンチを置き、気軽に立ち寄って頂けるよう工夫しています。</p>
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>経営者自らが、町内会の行事に参加し、交流に努めています。</p>	○	<p>ホーム職員も、町内会の行事に参加する予定です。</p>
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>運営推進会議にて、町内会長や民生委員の方々に、町内で役立てる事をお聞きしながら取り組んで行く予定です。</p>	○	<p>町内会の方々の意見をお聞きし実施する予定です。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	外部評価を活かし、改善点はすみやかに改善し、実行しています。		前回の要改善事項は全て改善しています。
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	ホーム内での生活の様子を委員の方へ説明し理解を得ています。		町内の多くの方々にGHを理解して頂く為に、見学会等を行い参加して頂いています。
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	市町村担当の方(地域包括支援センター)は多忙な為、あまり出席が叶いませんが、会議の内容を文書にて毎回報告しています。	○	地域包括支援センター以外からも担当者の出席をお願いする。
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	権利譲渡に関する研修会に参加し、成年後見制度について学んでいます。 ・ホーム入口に内容について掲示しています。		各研修会に参加し、学んでいます。
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	北海道が開催している「身体拘束廃止推進委員会」に参加し、学び、虐待のないホームにしています。		入居者の身体の状態をチェック(入浴時)、記録に残し、家族に報告しています。
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	十分な説明を行なった上で、契約し、家族の理解を図っています。	○	重要事項説明書に沿って説明し、同意のサインを頂いています。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>13 ○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>運営規定の中に項目を設け、説明しており、不満や苦情を受け入れる体制を作っています。</p>		<p>運営推進委員会への参加にて、外部者へ不満・苦情を表せる機会を設けています。</p>
<p>14 ○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。</p>	<p>ホーム全体として年4回季刊紙の発行や、各階が工夫をし、利用者の暮らしぶりや、行事について報告をしています。</p>		<p>「春桜便り」「春桜メール」</p>
<p>15 ○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>運営推進会議の中で、家族の代表者から意見を受けています。</p>	○	<p>家族会の発足を予定しています。</p>
<p>16 ○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>カンファレンス・リーダー会議・春桜運営会議で出された意見や、提案を聞き、反映させています。</p>		<p>花だん作りや行事等の意見を反映させています。</p>
<p>17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>入居者が心身的な重度化や、危険の可能性がある場合は、スピーディーに勤務を調整し対応しています。</p>		<p>2人夜勤や、時間外勤務にて対応しています。</p>
<p>18 ○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>管理者と計画作成担当者2名は、オープン当事より(6年間)変わらず、各階の職員配置・正職員の1名増加やパート賃金の値上げ等、努力しています。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	新人オリエントーションを始め、経験や勤務年数に応じて法人内外の研修を受ける機会を確保し、実践しています。		
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	同地域のグループホームの管理者会議やケアマネージャーの会議に積極的に参加し、ネットワーク作りをしています。	○	厚別区のグループホームが相互に職員の見学会を行い交流を深めました。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	休憩場所と時間を確保し、ストレス軽減する環境を作っています。又、悩み等を気軽に話せるよう工夫しています。		月2回の各階のカンファレンスの中で仕事に関する悩みや不具合を出し合っています。
22 ○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	各自が自ら資格を取る意識が強いので、研修や講座受講に関して、休日と勤務時間の工夫をしています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	ホームの見学をゆっくりとして頂き、その後お茶を飲みながら、自然な形で、本音を話せる機会を持っています。		
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入居相談、ホーム見学、判定見学、契約時説明等と、状況に合わせて3・4回は家族等からお話を聴く機会を作り努力しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	デイサービス・ショートステイ・老人ホーム等、本人と家族の状況や希望に合わせた対応を行っています。	○	グループホームへのショートステイ利用をすすめています。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居前に必ず、本人をホームに招いて相互の意見を確認するように努めています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	共に生活する一人の人として、生活の中から学んだり、支えたりしています。		あみ物や料理の方法、片付け方法等、色々と教えて頂いています。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族の方とは、どんな小さな事でも相談しながらケアを提供しています。		家族からの意見や、ホームからの伝達事項を細かく記録し、検討しています。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	家族との関係を見極め、より良い関係になる様に支援しています。(センター方式の記録を活用)		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	御家族の協力を得ながら、又相談しながら支援しています。(センター方式の活用)		馴染みの人に訪問してもらったり、入居者の希望の場所へいけるよう支援しています。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	申し送りや記録などから利用者同士の関係を把握し、食事の席やくつろぎの場所の確保などを工夫し、実践しています。		難聴の方が多く、意思の疎通を図るために、細かく配慮しています。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	現在まで退所後も継続的にかかわりが必要とする事例はありませんが、入院先の病院へのお見舞い等は行っていました。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	センター方式のアセスメントを利用し、本人の希望や声を記録し、それに沿った暮らしが出来るように検討しています。		本人の思いや希望の把握が困難な場合は、家族の方にお聞きし検討しています。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族の方からの聞き取りや、センター方式のアセスメントの中から、生活歴や馴染みの暮らし方の把握に努めています。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	一人ひとりの暮らしを強制することなく、本人も状況にあった生活を被く野方と相談しながら提供しています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ケアカンファレンスの実施や(月2回)本人と家族の希望の記録を残し、ケアプラン作成をしています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	カンファレンスの中で、ケアプランの見直しや現状に即した新たな計画を作成しています。		原則的には3ヶ月毎の見直しですが変化に応じて作成しています。
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の細かな出来事や心の動きも個別記録に記入しています。申し送りやカンファレンスで情報を共有し、ケアプランやケアの実施にいかしています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	パウロ病院内科、歯科への受診やリハビリからの助言など、柔軟な支援をしています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	地域の小学校の行事に参加したり、当ホームの行事では、高校生の音楽演奏の参加があったりと、地域資源との協働に努めています。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	ベッドのリースや補助具や車椅子の購入などについてケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、利用するための支援をしています。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	今のところ地域包括支援センターとの協働している事例はありません。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ホーム長が看護師の為、気軽に相談でき、日常の健康管理や医療活用の支援をしています。		母体のパウロ病院の外来看護師にも気軽に相談し支援しています。
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	母体のパウロ病院のかかりつけ医や、提携している精神科の専門医に受診し診断や治療を受けられるよう支援しています。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	ホーム長が看護師の為、気軽に相談しながら支援しています。		「特変用紙」と言う形式の記録に心身の状態や受診について記入しています。
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	母体パウロ病院や、連携している病院と協働し、入退院がスムーズに行なえるようにしています。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	入所時より本人あるいは家族から希望を聞き話し合っています。又重度化の早い段階から、かかりつけ医と相談し、本人と家族と共に話し合っています。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	心身の変化を速やかに家族に報告し、かかりつけ医と共に、チームとしての支援に取り組んでいます。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 ○住替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	住み替えによるダメージを最小限に防ぐ事に重きを置き、カンファレンスなどで十分に話し合っています。		出来る限り本人の希望に沿った部屋のしつらえや、好みを尊重し実践しています。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	人生の大先輩としての尊厳を保ち、常に言葉や態度に失礼の無いように配慮しています。プライバシーの保護も徹底し、申し送りや記録の中でも個人名はイニシャルを用いています。		入居時に個人情報保護に関する説明を行ない同意を得ています。
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	思いを言葉に出来ないときなどは、表情やしぐさから汲み取れるように、常に注意を払っています。生活の中で自己決定できるようにわかる力に合わせて説明をし納得していただく支援をしています。		本人の行動の前後の状況から考察し安心して過ごせるように個々に応じた対応しています。
52 ○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	この時々やしぐさや様子から、本人の希望のペースを見つけ出し、その人に合った一日の過ごし方を支援しています。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	好みのおしゃれが出来るように支援しています。理容、美容室は4つのコースがあり、それぞれ希望のコースを選ぶ事ができます。		①行きつけの理、美容室。②近くの理、美容室。③パウロ病院の理、美容室。④訪問理、美容室。
54 ○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	出来るだけ多く参加して頂けるよう、その人の好みや力に合わせ、野菜きり、もやしの芽取り、盛り付け、味見、おしぼりたみ、配膳、下膳、食器洗い、片家づけ、テーブル拭き、等、利用者と職員が一緒に行なっています。		出来る限り積極的に参加して下さる様、工夫しています。声かけやその人が参加したくなるような雰囲気作りをしています。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	本人や家族の方から、好みの物をお聞きし、午前や午後のお茶うけや、食後のデザートとして提供しています。		入浴後やテレビをみた楽しんでいるときなどに個別に飲み物やおやつを楽しめるようにしています。
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	一人ひとりの排泄記録記入し、パターンを把握しており、サインがあるときは素早く対応し、失敗を防いだり、一時的に紙パンツを使用しても、早く布パンツになるように支援しています。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	一人ひとりの希望やタイミングを洞察して、強要することなく希望に沿って入浴を楽しんで頂いています。		準備から入浴まで長い時間を要する方の日は、入浴を1名にしたり、体調不良を訴える時は、足浴のみにする等、清潔と楽しみの工夫をしています。
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	記録により一人ひとりの生活パターンを把握しており、その日に応じて休息や眠れるように支援しています。		不眠で不穏状態になる方には、さりげなく入床を促したり、一日中居間に居ると疲れてしまう方には、お部屋で休んで頂く様に声かけをしています。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	その人の能力に合った役割をしており、張り合いを感じて行なって頂けるように声をかけたり、お礼の言葉を言うなどしています。		
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	病院の売店に行ったり、車でスーパーへ行ったり、一人ひとりの希望や力に応じてお金を所持したり使えるように支援しています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	真冬や雨の日以外は、出来るだけ戸外の空気を吸えるように、花畑の散歩や、野菜の収穫、パワロ病院の中庭や喫茶店へ行くなどしています。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	動物好きな利用者が集まり、動物(ヤギ、ウサギ、ダチョウ、うま、鶏)のいる公園へ出掛け、動物とふれあい楽しんでいます。		お花見、紅葉狩りなどをしています。
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望の在るときは、いつでもすぐに掛けていただいています。手紙のやりとりも自由にして頂いています。		年賀状や絵手紙をスタッフと共に書いています。
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	ご家族や昔の知人の方等が、自由に来て頂いています。スタッフは感じの良い対応を心がけています。		
(4) 安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	スタッフ全員が身体拘束の具体的な行為を十分理解しており、拘束しないケアに取り組んでいます。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	スタッフ全員が鍵をかける事の弊害を理解しており、居室や日中、玄関には鍵をかけていません。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	利用者の所在や様子を把握できる設計になっているので、安全に配慮しながら業務を行なっています。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	その人の能力に応じて使って頂いております。状態に応じて危険を防ぐ取り組みをしています。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	インシデント・アクシデント用紙を利用し、一人ひとりの注意事項を知り、事故防止に役立てています。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	毎月10日を転倒予防デーとしており、はき物のチェックや、事故発生時の対応の確認をしています。		応急手当、対応マニュアルを見やすい所に貼り、備えています。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年1~2回の避難訓練を行っており、スタッフは利用者が避難出来る方法を周知しています。パウロ病院と連携を図っています。		
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	ケアプラン説明時や、来訪された折の話し合いの中で、リスクを説明し、対策を話し合っています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	排泄、水分、食事の状態をチェックし、定期的なバイタルチェックにより、変化や異変を早期に発見出来るように努めています。又、速やかに情報を共有し、看護師であるホーム長に報告し対応しています。		食事以外にも午前と午後のお茶には全員が集い、体調変化の早期発見に努めています。その他の時間にも表情や顔色を観察しています。
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	1人ひとりの薬の目的、副作用、形態を記した用紙をファイルしてあり、いつでもすぐ確認出来るようにしてあります。又、事故防止の為、目立つ赤文字にて注意事項を書き、目立つ所に貼っています。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	スタッフは、原因、及ぼす影響を十分理解しており、毎日の食事やおやつに工夫しています。又、散歩や腹部マッサージ等を行っております。		毎日、ヨーグルト・牛乳・オリゴ糖等をその人に合わせて摂って頂いております。
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	1人ひとりの口腔状態を把握しており、その人の能力に合った支援をしています。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量、水分量を記録し、不足のないように摂れるよう工夫しています。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウィルス等)	感染症予防マニュアルに添い、行っています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	マニュアルに添った管理をしています。		食中毒予防パンフレットを見やすい所に貼り、日々、予防に取り組んでいます。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	ホーム前の花だんやベンチ、パラソル、テーブルを設け、近隣の人々も憩えるような空間を確保しています。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共有空間には、常に季節を感じて頂けるように工夫しており、不快な音や光には十分に配慮し、カーテンの利用やオルゴールのCDを流すなどしています。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	居間は元より、廊下やワークスペース、玄関ホールにもソファーやイスを置き、クッションや座布団も整え、いつでも誰でも自由に過ごせる工夫をしています。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	御家族や本人と話し合い、馴染みの物や好みの物を置き、居心地良く工夫しています。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	湿温計を各所に配置しており、利用者の状況に応じてこまめに調節しています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>車イスや歩行器を自由に使用出来るように、広くスペースを確保しており、手すりもいたる所に設置しています。廊下の途中で休めるように、イスを置き工夫しています。</p>	
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>アセスメントシートや毎日の記録から、1人ひとりの判断力を活かし、自立して暮らせる工夫をしています。</p>	<p>・トイレには大きなハートマークのトイレ表示をしています。</p> <p>・声かけやタイミングを図り、さり気なくサポートしています。</p>
87	<p>○建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>花畑、いちご畑、木陰とそれぞれにベンチを置き、花を観たりいちごつみをして食べたり、又、木陰で涼んだり、1人ひとりが楽しめる工夫をしています。</p>	

V. サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>○①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない</p> <p>毎日の申し送りやアセスメントシートより、個々の思いや願い、意思を共有しています。</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>○①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない</p> <p>食事、午前と午後のお茶の時間は必ず一緒に過ごしています。又、テレビをみたり折り紙、ゲーム、散歩等、ゆつくりと過ごしています。</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>○①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p> <p>1人ひとりの生活のペースをスタッフ全員が重んじて暮らしています。</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>○①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p> <p>自然な笑顔や、声の調子、話の内容、態度から生き生き暮らしている姿が見られます。</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>○①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p> <p>本人がのぞみ、出かける所へはほぼ出かけています。御家族の協力を得ながらお墓参りや遠方へも出かけています。</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>○①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p> <p>棟続きのパウロ病院や他の希望する病院での受診を素早く対応しています。安全面では、IHキッチン・スプリンクラー設置・消防署への通報装置等があります。</p>
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>○①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p> <p>毎日の業務日誌、申し送り等により変化や要望を素早く把握して、柔軟な支援が出来るよう努力しています。</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>○①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない</p> <p>御家族からの小さな希望、要望も記録に残し、実現出来るように、スタッフ全員が同じ対応をし、信頼関係を築けるよう、努力しています。</p>

V. サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ○③たまに ④ほとんどない</p> <p>通所の利用者が来訪されます。</p>
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<p>①大いに増えている ○②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない</p> <p>運営推進会議を通して、町内での小さな介護セミナーを開く予定等の話が出ており、少しずつ増えていると思います。</p>
98	職員は、生き生きと働いている	<p>○①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p>ストレスや、心身の疲れに配慮し、休憩スペースや休憩時間の確保を十分にしており、離職者も少なく、生き生きと笑顔で働いていると思います。</p>
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<p>○①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p>毎日の生活の場において、利用者の笑顔や落ち着いた生活態度、御家族の態度等から、満足されていると思います。</p>
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<p>①ほぼ全ての家族等が ○②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p>遠慮などから、本当の希望を言えていない御家族もいると思われるので、話の中から、小さな要望も読みとれるように努力しています。</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

- (日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)
- ・グループホームとしては、めずらしく広々としたスペースを確保しており、入居者の皆様もスタッフもストレスなく住み、又、働く事の出来る環境を誇らしく思います。
  - ・毎年実習生を1～2名受け入れています。